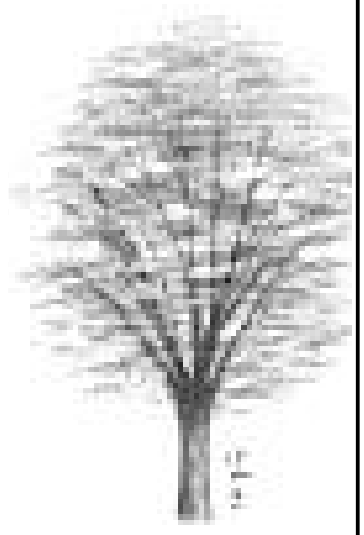
民報
あばしり
No.９６３
2014・3・30
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL四三－四四五八
FAX四三－四四五七

新年度予算案の一般会計と６特別会計、１企業会計に反対！



３月５日に召集された網走市議会は、２０１４年度予算案が市長から提案され、予算等審査特別委員会では、１４日から２０日までの５日間にわたって審査してきました。

市全体では５６６億８千万円で、市民一人当たりの借金は１４９万円となり、苦しい状況に変わりがなく、過去の過大な投資が財政を圧迫していると反対しました。

ただ評価する政策としては、継続したヒブ予防接種、小児用肺炎球菌予防接種のワクチン全額助成、住宅リフォーム政策、新たに、１５歳までの子ども医療費の入院費無料化などがあります。

反対した具体的内容は

消費税に対する対応で、今回、８つの条例を改正しましたが、内容は、国が増税したら議会に諮らなくても増税できる文言となっており、議会の役割を軽視するものになっています。

また、第３次行政改革による人員削減、賃金カットと業務量の拡大は、職員の意欲低下に少なからず影響を与えていること。

教育関係で、就学援助で、２０１０年から新たにＰＴＡ会費、生徒会費、クラブ活動費が加えられたのに、網走では実施されていないことなど、総体的には賛成できないものになっています。

特別会計の市有財産整備特別会計では、潮見住宅団地の地盤沈下問題で、その対策費として総額で、24億１９００万円にもなり、今後も長期に対策を講じなければならない。過去の安藤市政のズサンな土地造成と売却の結果が、この事態を生み出したものとして反対しました。

国民健康保険特別会計では、国が低所得世帯に対して2割・5割軽減策を講じたが、依然として高い保険料となっている。保険料を下げるには一般会計からの繰入が必要です。流氷館会計や能取漁港会計には繰入れても良いが、国保料に繰入れるのは、公平性に欠けるとう認識は納得できない。

また、資格証の発行は命に関わる問題であり認められないと反対しました。

網走港整備特別会計では、重要港湾計画は、当初から過大な計画だとして反対してきたこと。赤字も14億6千万円もあり、売却地も半分も売れ残っているなど、第２の能取になりかねないと反対しました。

日本共産党は、今回の予算案は、市民の暮らし・福祉・教育などに十分な配慮がなされておらず、問題点があると考えています。今後、定例議会ごとに指摘しながら改善に努めていきます。

25日に開かれた本会議では、予算等審査特別委員会の七夕委員長から審査の結果が報告されました。

日本共産党議員団は、松浦議員が反対討論に立ち、

２０１４年度一般会計
６特別会計
（市有財産整備特別会計、国民健康保険特別会計、網走港整備特別会計、能取漁港整備特別会計、流氷館特別会計、後期高齢者医療特別会計）
水道事業会計並びに消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴う関係条例

に反対しました。

反対の理由として、

新年度予算案は、過去の財政危機を市民や職員の過大な負担を強いる削減によって乗り切ろうとしてきたこと。

年度末の一般会計債務残高見込みは、３６９億円。

事実上の借金である債務負担行為額の35億円を加えると４０４億円。

これに取り崩し可能な基金26億７千万円を差し引いても実質債務残高は、３７７億３千万円になること。

さらに、特別会計の赤字21億５千万円。

その他の特別会計で12億円。上水道63億円。下水道93億円。

流氷

「６階がおすすめです。」

二ツ岩と帽子岩」が目の前にくっきりと並びあちこちに浮かぶ流氷、紺碧の海にオーロラ号が沖のほうへ動いていた。リハビリを兼ねて９階から下の階に順に景色を眺めた。▼不注意で滑って転び、右手首骨折、ギブス、手術、入院２週間後退院。今は、腫れと熱が残り動きに違和感があり、リハビリ中。１ヶ月前に、骨と骨を金具でつなぐ手術を受けた。骨たちが馴染むには３か月かかるようだ。▼Ｋ病院は、新装後数年たっているが、良く知らなかった。病室に入るとすぐに洗面所、入口を出ると左右に使いやすく清潔なトイレがあるので、いつでもゆっくりと使える。ナースステーションの向かい側に”コの字”に病室があるので、いつでもどこからでも看護師さんは駆けつけてくれる。手術後、担当看護師さんに連れ添われて一緒に部屋まで歩いて行ったが、麻酔が残るそのずしりと重かった右腕を左手で抱えた。そして病衣に着替え、暖かいオシボリで体をふいてくれた時は、なぜか思わずウルウルーー患者の心身によりそった看護に安心を覚えた。▼同室３人の方は、血圧や糖尿などで食事制限があり、３月３日のお雛祭りの献立”ちらし寿し・アサリのすまし汁・さくら餅”でお盆に並んだのは私だけ？粗食に耐えてきた結果とほくそ笑んだが、骨粗鬆症のために20年も骨の治療をしてきたのもその結果だし。▼リハビリは傷がふさがっていることを確認し翌日から始まった。いつもグーパーしている事、腕を頭上に伸ばす事、毎日30分。担当のＭ先生、単身赴任だ。もっと子育てにかかわりたいが、家族優先の人事は無理と。手術をしてくれたＨドクターは、３月末で移動。それでも担当した患者のために月１回出張診察に来網。そのうちに札幌に落ち着くだろう。▼４月から医療費も上がるし、医師不足も絡んで何だか元気が失せる。▼入院中に読んだ本、あの「乙女の祈り」を作曲したバラノフスカは”平和と安寧をピアノに託して祈ったのではないか”に、共感した。（て）